

むらたれぬ

いくもゝ重へだて呼ぶごとと妣のみ聲ひびき木枯奥津城どころ

夜すがらをかへらぬ夢に待ちわびて見出でし星をまた失ひぬ

さむくつらき風に木枯たゆたへなこのねくつきに考ねむります

白露の今朝ときめて消えて行きてやがてあとなくて我れねばる也

ゆくべくは行かるべき路漫ろにて宵の村雨また強うなりぬ

くさむらに虫はすだけど物し言はぬ考妣こひしこの草むらに

時としてあらぬ行手に迷ひては歎つもあろか我が世ひとの世

保育者のため

行進遊嬉について

中村五 六

此處に行進と云ふのは、マーチングの謂にて、一般にはマーチと稱へ、運動遊嬉の一種として、諸所の學校や幼稚園にて廣く行はれるものなり。其實演の方法は、種々あれども、幼稚園に行はるゝものは數多の幼兒を一行或は二行となし、教師其先頭に立ち種々の動作をなして、幼兒に之を模爲せしめながら行進するものにて、行進中の動作は、手を拍ち又は相摩すること、腕を前方或は左右に伸出し又は之を伸縮すること、手腕にて翼はたきの眞似をなすことなどありて一定せず、

唯幼兒に出來得べき如きものを、教師其時の意によりて撰むこと多し、故に未だ深く其利害得失を考究して實施せるものにあらざるが如し。先頃、米國幼稚園雜誌を見しに適々此問題に關する記事あり、考究の價值あるものと思はるれば、茲に之を參照して一二言を費し考究の資に供せんとす。凡そ事物には目的方法あるを常とす、目的定まりて方法之に協はざるべからず、今や幼稚園幼兒に行進をなさしむる目的如何、先づ之を考究して然る後其目的を達する方法を論定すべきなり、而して行進の目的は、

- 一、談話歌唱或は手技等にて坐して保育を受くることより精神身軀に緩和を與ふる爲に運動に移らしむること。
- 二、幼兒に必要な律動の感念を養ふこと。

三、歩行を容易にし且つ優美ならしむること。右の三項に歸すべし。

行進の外なる種々の運動は、右の目的を達するに役立たざるか、多くの運動は其種類如何を問はず、静坐の後之に移るときは、快感を與へ有益の變化となり、又跳び躍り手を拍つなど大概の舉動は、所謂律動的運動となるを以て、前に擧げたる目的の第一二項は之を達すること難からざるが如し。然らば行進は第三項の目的を達するに於て、相優る所なかるべからず。

抑々歩行は唯足のみにては未だよく遂ぐることはせず、宜しく全身統合して働くによりて成るものなり、其中にも腕の助を與ふること頗る大なり、故に歩行の際は手腕に他の勞を課することあるべからず、若し夫れ歩行中手仕事をなすときは、其

人の態度醜様を呈することあるは、少しく觀察力に富める人の容易く發見する所なるべし、依つて腕は肩より自由に繋りて、左足動くときは、右腕は前左方に振り、右足進むときは、左腕は前右方に振るべく、又腕は肩より振りて、臂より振るべからず、斯く自然の態を保ち、腕を肩より振るときは、身軀を推して前方に進むること大なるのみならず、運動を易くし、自然に合ひ少しも所謂無理なる、所なきに至るなり。

凡そ人の身體は其重點稍々後方に偏す、故に全體の重みは自ら踵に落つるの傾向あり、歩行に際しては、身體の重みを少しく前方に進めしむへし但し臀部を後にして胸下に重點を持たしむるの心持あるへし。

又人の歩行に輕重の差あり、是は其人の體重に

關せず、足の使ひ方による、歩みの重き人は足を上げず踵のみにて體重を支へ、一步毎にかゝどを地に打つの傾あり、之に反して歩みの輕きは、足を高く上げあしざさとかゝどを同時にふみつくるの習あり、足を上げて歩むは成人には難事なり故に幼時より、其習慣を養ふの要あり、例の古來何流など云ふ引きずり足は宜しからず、時には馬のだく(高く小足にて歩む)を習はしむべし、又手を體の或部に固着し、或は運動をなしながら歩ましむべからず、これ己に述ぶるが如く、歩行の際には、腕は既に一の役を務むるものなれば、其上に他の役を命ずるときは、先務の懈怠となり、從て身體の調和を害するに至り、顯はれては其人の態度品格を損することゝなるなり。

右述べし所によりて、戒心留意以て行進を練習

するときは、歩行を輕易にし、且つ優美ならしむるに至ることを知るべし、然らば手腕の運動は全く之を禁すべきかと云ふに、決して然らず、是は宜しく行進の前後中間に靜に立てる時に於てすべし、行進中手を拍つは幼兒の喜悅を増すと云ふものあり、眞に然り、然れども歩行中に之をなさしむるを必要とせず、其前後に於て此喜悅を享けしむることを得べし、幼兒には多種の動作を同時になさしむるよりは、線の連續してなさしむるを以て、自然に合へる仕方なりとす、

要するに、行進と同時に手の動作をなさしむることなく、一段の注意を以て之をなすときは、歩行輕快優美となりて自ら其人の風采をも高むるの効あること疑なし、幼兒保育の任に當る方は、實際に試みられんことを望む



東基吉君の幼稚園案内は、次號から續載します。

予が幼稚園

市川源三

世が開化したとか、社會が進歩したとか、人間が發達したとか云ふのは、世間が全く一變し、社會や人間の根柢から變化したと云ふのでは無い。唯、もとの状態に或るものが加はつたと云ふのに過ぎぬ。即ち野蠻と云ふのは、白粉や紅をつけぬ人間開化文明と云ふのは白粉や紅をつけた人間と云ふに外ならぬ、言ひ換へて見れば、**野蠻=開化**、**文明=野蠻**